

# 老いていく地球人

## 世界範囲の高齢化と対策

孫昊（ソンコウ）

同志社大学大学院 文化情報学研究科 文化情報学専攻（中国）

### 1. はじめに

日本は「世界一長寿の国」として知られている。総務省統計局のデータによると、日本の65歳以上の高齢者人口は3461万人、総人口に占める割合は27.3%と共に過去最高になり、既に「超高齢化社会<sup>1</sup>」になっている[1]。世界範囲の経済発展と医療技術の進歩とともに、このような人口高齢化の傾向は日本から全世界に広がり、内閣府平成28年版高齢社会白書（全体版）により、2015年の世界総人口は72億4947万人であり、2060年には101億8429万になると見込まれている[2]。また、表1に示したように、世界人口の高齢化率は過去の65年間上がり続け、2060年には18.1%に達すると見込まれ、今後50年間で高齢化が更に急速に進展すると思われる[2]。

表1. 世界人口の動向

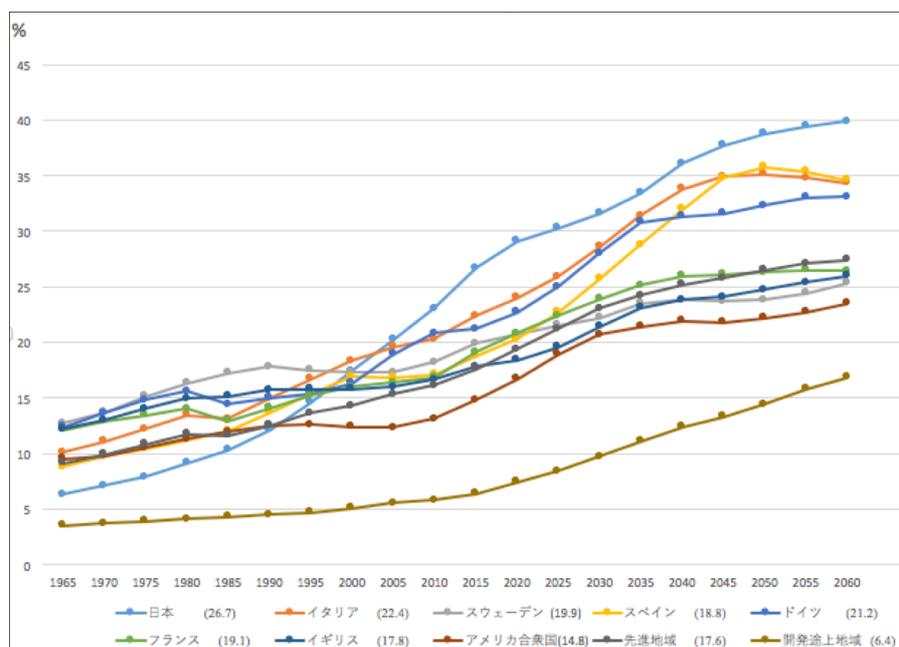
	1950年		2015年		2060年	
総人口	2,525,149	千人	7,349,472	千人	10,184,290	千人
<b>65歳以上人口</b>	<b>128,666</b>	千人	<b>608,180</b>	千人	<b>1,844,269</b>	千人
先進地域	62,774	千人	220,817	千人	350,607	千人
開発途上地域	65,892	千人	387,363	千人	1,493,663	千人
<b>65歳以上人口比率</b>	<b>5.1</b>	<b>%</b>	<b>8.3</b>	<b>%</b>	<b>18.1</b>	<b>%</b>
先進地域	7.7	%	17.6	%	27.4	%
開発途上地域	3.8	%	6.4	%	16.8	%
平均寿命（男性）	45.4	年	68.3	年	77.4	年
同（女性）	48.3	年	72.7	年	80.4	年

出典：内閣府平成28年版高齢社会白書（全体版）

世界各先進国の高齢化率について見ると、2015年の統計データでは日本は26.7%、イタリアは22.4%、スウェーデンは19.9%、スペインは18.8%、ドイツは21.2%、フランスは19.1%、イギリスは17.8%、アメリカは17.6%などとなっている[2]。また図1に示した通り、2060年までの間いずれの国でも高齢化率は右

<sup>1</sup> 超高齢化社会：高齢化率（総人口のうち65歳以上の高齢者が占める割合）が21%を越えた社会を指す。

肩上がりの傾向がある。また、2060年の予測高齢化率では、日本は39.9%、イタリアは34.3%、スウェーデンは25.3%、スペインは34.6%、ドイツは33.1%、フランスは26.4%、イギリスは26%、アメリカは23.5%などと大きく上昇している[2]。



データの出所: World Population Prospects: The 2015 Revision

図1. 世界主要国・地域の人口高齢化推移

このような世界範囲での高齢化は社会のあらゆる側面に広範囲にわたる影響を及ぼす。本論文では、高齢化がもたらした課題を洗い出し、各課題に対して筆者なりの提言を行う。

## 2. 高齢化がもたらした課題

世界範囲の人口高齢化が社会に多くの課題をもたらしている。そのうち最も重要視されているのは労働力不足の課題、医療・介護の課題と社会保障費の課題などである。

### 2.1 労働力不足の課題

高齢化が進めば進むほどは労働人口が少なくなる。高齢化が最も進んでいる日本では、2006年から2016年までの間労働人口は男性256万人、女性207万人それぞれ減少し、今後2025年までに460万人相当の労働力が失われるとされている[3]。この労働人口の減少は経済成長率の低下を招きかねなく、最終的には

国内市場の規模に影響を与えるおそれがあり、企業を倒産まで追い込む原因の一つでもある。特に労働力が不足している業界として、介護・看護業界、運送業界、建設業界、情報サービス（IT）業界と販売・飲食業界が挙げられる[4]。こういった業界における雇用は既に「募集しても応募がない」と言えるほど深刻化している。

## 2.2 医療・介護の課題

人は加齢するにあたって病気になるリスクが高まってくる。高齢化が進むほど受診するケースが増え、医療施設の負担も大きくなる。その進み具合によって高齢者が満足できる医療を受けられなくなる恐れもある。少子高齢化が進み、昨今の医療現場では医師と看護師が不足している状態になっている一方である。そのため医療現場における一人あたりの仕事量が増加し、肉体的、精神的な負担が徐々に増大している。こういった負担は医療ミス引き金になりかねない。

元々近親による「家族介護」が最も理想的なパターンであるが、「家族介護」を実際に行っている介護者の精神的・肉体的負担が深刻になっている一方である。また、子供が働いている場合老夫婦がお互いに介護している「老老介護」も現れたが、その介護の質が疑わしい。少子化と核家族化が進むことによって介護できる家族はほとんどなく、結局「家族介護」というより介護施設に頼る場合が圧倒的に多い。日本の場合、厚生労働省が実施している「介護サービス施設・事業所調査」によると、2000年度要介護者・要支援者数は218万人であったが、この数から2013年までに一気に564万人となり、13年間要介護者・要支援者の数は346万人も増加している[5]。しかし、要介護の高齢者が多くなるにつれて介護現場の人手不足も深刻化しつつある。厚生労働省の試算では、2025年までに介護職員の数に218万人～229万人ほど不足することを示唆した[5]。

## 2.3 社会保障費の課題

社会保障費は、医療・介護の自己負担以外の給付額や年金の受給額など、社会保障制度によって国や地方公共団体から国民に給付される金銭・サービスの年間合計額である[6]。世界の先進国では、税金の一部を国民のための社会保障費として充てているが、高齢化が進むにつれて労働人口が減少する一方で、非労働人口が増加し続けている。つまり、税金を納める人口が少なくなるのに対してそれを使う人が増えていることである。この社会保障費は年々介護費用が高んで国としての負担が大きくなっている。日本では多額の税金社会ホ諸費に投入したので、子育て支援などの少子化対策に財源が回っていない。この状態が続くと出生率が下がる恐れもあり、労働人口は更に減少することになってしまう。また、老後の生活保障の要となる年金も枯渇のリスクに晒されている。日本では厚生

年金は 2033 年、国民年金が 2037 年に枯渇する可能性が大きいとされ、重大な社会問題となっている[7]。

### 3. 各課題に対する提言

本節では、第 2 節で取り上げた 3 つの課題に対して筆者なりの提言を行う。

#### 3.1 労働力不足の課題の提言

労働力不足問題の最も重要な原因は少子化にあると思われる。日本人の結婚意識が薄くなり、戦後の 1947 年から 2016 年までの間婚姻率が下がり続けている。また、2015 年の国勢調査では、日本の生涯未婚率<sup>2</sup>については、男性で 23.37%、女性で 10.06%になっている[8]。そして、結婚したとしても子供を持つ必要はないとした人の割合は、20 歳代が 63.0%、30 歳代が 59.0%になり、つまり半数以上の 20 歳代と 30 歳代の人には子供を産むつもりがないことになっている。少子化の原因は複雑であるが、「子育てに必要な費用が多い」、「出産後の女性の社会進出や子育てなどの環境整備が整っていない」といった経済的不安が多い。少子化を根本的に解決するために、とにかく人々の結婚や出産の大切さを伝える必要がある。また、出産・子育てしやすい環境を作ることや、出産後の女性の社会復帰の環境整備も急務である。

少子化の問題解決に取り組む他に、外国人労働者を雇用することも労働力不足問題を解決する方法の一つと考えられる。目下既に多くの大手企業は既に諸外国籍の人材を雇っている。しかし雇われる外国人の目の前にそり立つ文化と言語の壁をどう乗り越えるのも課題の一つである。この課題の解決策として、外国人留学生を積極的に誘致にある。外国人を留学生として本国の専門学校や大学に 2~4 年の通わせ、この間滞在先の国の文化と言語を理解してもらってから採用する。

#### 3.2 医療・介護の課題の提言

医療・介護現場の課題を解決するために関連人材の育成が真っ先に取り組むべきことである。医師の育成は長い期間が必要なため、大学では優秀な自国の人材を確保すべきである。看護師の将来の後補として、看護師になる意向のある留学生を看護師育成学校に招致することが一つの方法である。また、介護現場で働きたい大学卒・大学院卒の留学生は少ないと思われるため、そのような人材を諸外国から直接受け入れ、母国語と介護に必要な知識を教えるなどの育成を行うと介護現場で活躍できる人材になれると思われる。

#### 3.3 社会保障費の課題の提言

---

<sup>2</sup> 生涯未婚率: 50 歳まで一度も結婚したことがない人の割合を示す値である。

医療・介護現場の課題を解決するために財源の確保が一番大事である。しかし、労働人口が減り続けると税金による収入が減り、財源の確保が非常に難しくなってくる。したがって、まず現段階と将来の労働人口を増やすことを考え、つまり子育てしやすい環境の整備による女性の社会進出増加と、出生率を増やして将来の労働人口の確保に力を入れるべきである。

#### 4. おわりに

本論文の筆者は、今後の世界が直面している重大な課題の一つは人口の高齢化であると確信している。本論文では、まずこの世界範囲の高齢化の現状を紹介した。次にこの世界範囲の高齢化がもたらした典型的な課題として、労働者不足、医療・介護と社会保障費という 3 つの課題を挙げた。最後に各各課題に対して筆者なりの提言を行った。また、各課題において、世界で最も高齢化が進んでいる国である日本を例として取り上げて具体的に説明した。本論文の結果は世界範囲の人口高齢化に少しもで寄与できれば幸いである。

#### 参考文献及びサイト

- [1] 総務省統計局統計データ. <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi971.htm>
- [2] 内閣府平成 28 年版高齢社会白書（全体版）.  
[http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/zenbun/s1\\_1\\_5.html](http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2016/html/zenbun/s1_1_5.html)
- [3] 株式会社 NTT データ経営研究所. どうやっても人手は不足する～国の課題は「需要不足」でなく「人手不足」.  
[http://www.keieiken.co.jp/pub/yamamoto/column/column\\_170403.html](http://www.keieiken.co.jp/pub/yamamoto/column/column_170403.html)
- [4] 今が狙い目？人手不足の 5 大業界と目指す方法. <https://careerpark.jp/86436>
- [5] 厚生労働書資料. 介護人材の確保について. [http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu\\_Shakaihoshoutantou/0000062879.pdf](http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000062879.pdf)
- [6] デジタル大辞泉  
<https://kotobank.jp/word/%E7%A4%BE%E4%BC%9A%E4%BF%9D%E9%9A%9C%E8%B2%BB-683787>
- [7] 膨張する社会保障費. <https://matome.naver.jp/odai/2141222962471876101>
- [8] 平成 27 年国勢調査. [http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?\\_toGL08020103\\_&tclassID=000001077438&cycleCode=0&requestSender=search](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001077438&cycleCode=0&requestSender=search)